

VIII 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と
宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告

宮崎県小・中学校特別支援教育研究部会

本研究会は、県内の小・中学校に設置された特別支援学級及び通級指導教室が所属する県内 11 地区の研究會（以下、「各地区特別支援特研」と記す。）の連合体である。

1 研究主題（テーマ）

「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について」

2 主な研究・活動の内容

（1）年間活動報告

- ① 第 1 回理事会の開催（R 元. 6. 20）
- ② 県特別支援教育連合（県特研連）第 22 回研究大会参加（R 元. 7. 26）
- ③ 令和元年度全日本特別支援教育研究連盟第 53 回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「鹿児島大会」参加（R 元. 10. 31～11. 1）
- ④ 関係団体への負担金納入完了（R 元. 12）
- ⑤ 第 2 回理事会の開催、研究集録『むすび』の発行（R 元. 2. 20）
- ⑥ 「全特協 104・105・106 号」（全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会会報）の配付

3 主な研究成果

（1）成果

- 名簿作成や県外の研究大会案内、会誌などの配付等を、各地区担任理事の協力を得ながら行うことができた。負担金についても、すべての地区特研から完納され、関係団体へ納付することができた。
- 令和元年度全日本特別支援教育研究連盟第 53 回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「鹿児島大会」（R 元. 10. 31～11. 1）では、都北地区都城市立梅北小学校 西脇眞由美 教諭が「合理的な配慮の取組」について発表した。
- 小中一貫校が年々増えているため、負担金の集金の在り方については、小、中別 2 校扱いとして集金した。冊子、文書等は 2 校分配付している。

（2）課題

- 各地区特研や障がい種別研究会から多くの協力を得られたが、活動推進に対しては本会から十分な支援を行うことができたとはいえない。
- 5 月の段階で、各地区の特別支援学級の設置校数、学級数の正確な数の把握が困難である。
- 集金に関して、請求書等の作り直しや再発行等、各地区の理事、担当の連絡、事務手続きに負担をかけた。本年度形式、集金の手順等を記録として残し、次年度のスムーズな会計作業へとつなげていきたい。
- 研究集録を冊子として作成しているので、各学校での活用を呼びかけたい。

令和1年度 宮崎県特別支援学校教育研究会

1 組織

本会は、県内の特別支援学校によって組織され、職員の資質向上と特別支援教育の振興を図ることを目的とし、10部会で運営されている。

2 各部会の活動状況

(1) 教務主任部会

第1回を7月に清武せいりゅう支援学校で、第2回を12月に日南くろしお支援学校で開催した。各回とも新学習指導要領実施に向けた具体的な取組や各校の課題を協議することができた。特に第2回は、南海トラフ地震に備えた備蓄品や屋上の避難場所を見学することができ、児童・生徒・先生方を守るための取組を協議できた。このように防災教育を含めて地域に根ざした教育課程を話し合うことができた。

(2) 生徒指導主事部会

今年度は、年2回の部会を計画した。第1回では「宮崎東病院見学」人権同和教育課指導主事を招き、「携帯電話・スマートフォンの持込についての状況説明」各校の生徒指導上の諸問題として、「人権教育の年間指導計画等の12項目について協議等」を行った。第2回は、1月31日に実施予定である。各校で情報交換することにより、課題解決に向けての参考となった。今後も、ネット社会により様々な生徒指導上の問題が発生されることが予想されるため、本部会での連携を図り、課題解決に努めていきたい。

(3) 保健主事・養護教諭部会

本年度は養護教諭部会との合同部会を含む2回の部会を実施した。合同部会では、「学校における医療的ケアの現状」というテーマで御講演頂き、日常の指導と照らし合わせながら研修を深める事ができた。また部会では各校の現状や課題に対して活発な意見交換や情報交換を行うとともに、明星視覚支援学校に開設された、きこえとことばに関する相談乳幼児教育相談の取り組みについても研修することができた。保健に関する課題は各学校様々であるが、この会を通して情報の共有や意見の交換を活発に行い、学校保健の充実に努めたい。

(4) 進路指導主事部会

本部会は、県立学校特別支援学校の進路指導主事及び宮崎県特別支援学校教育研究会理事（部会長）で構成されている。本年度の部会は、第1回を8月8日に児湯るびなす支援学校で実施し、第2回は令和2年2月10日にみやざき中央支援学校で実施予定である。第1回では、各学校における進路指導の取組や課題について協議を行った。第2回は、各学校の進路状況についての報告や、全校に共通する進路指導上の課題への取組等についてまとめ、来年度に役立てていきたい。

(5) 栄養教諭・学校栄養職員部会

第1回部会を五ヶ瀬中等教育学校にて開催した。物資搬入や在庫管理等、山間部の五ヶ瀬こその運営管理もあり参考になった。第2回部会は、児湯るびなす支援学校にて、衛生管理における課題と改善策、個別指導についての協議を行った。個別指導においては、主に肥満に関する指導、保護者との面談等でのそれぞれの実践を持ち寄り、より効果的な支援の方法や教材について深めた。今後も各校の課題や取組を共有し、安全・安心な給食運営と食育の充実に努めていきたい。

(6) 美術科代表者部会

第1回は、県立美術館でアート展の審査方法、広報の在り方等について話し合った。第2回は、みやぎ中央支援学校で展示方法や額装の確認、コラボ作品のサンプル作りを行った。11月27日～12月1日まで県立美術館にて「第18回特別支援学校アート展」を開催し、作品数469点、来場者数934名となった。各学校のQRコードを載せたポストカードが好評だった。第3回は、1月に県立美術館で1年間の活動反省と作品鑑賞会を行う予定である。

(7) 音楽科代表者部会

第1回は、延岡しろやま支援学校にて、高等部を対象とした研究授業を参観し、協議を行った。研究授業においては歌唱、器楽、創作と幅広い領域における活動を織り交ぜた内容であった。第2回は、みやぎ中央支援学校にて、伝統音楽における民謡の授業を参観した。講師を招聘した技術指導では、歌い方について専門的な立場からの指導は非常に参考になった。協議では、日頃の授業における指導法や悩みなどを積極的に意見交換し、有意義な会となった。

(8) 保健体育科代表者部会

本年度は年3回を計画した。研究では「体づくり運動班」と「特別支援体育連盟（仮称）の在り方班」に分かれて行き、3カ年計画において本年度が3年目である。そのため、事例集活用アンケート集約や今まで検討を続けた意見等の集約を行った。第3回目は次年度の九州学体研（宮崎開催）に向けた単元構造図の検討などを行う計画である。今後も、特別支援学校における保健体育学習の充実に努めていきたい。

(9) 家庭科代表者部会

本年度は「主体的・対話的で深い学びの実現を目指す家庭科教育とは」という研修主題の2年目であり、2回の部会を開催した。本年度は、特に衣生活に関する分野を中心に実技講習や講話を実施し、協議を行った。2回目の部会では、日南丸高株式会社の施設見学を行い、服飾産業の現実を見ることで、安価で手軽に衣服が手に入る社会だからこそその家庭科教育の意義や学習内容について考える貴重な機会を得ることができた。各学校の取り組みや課題等について、情報共有を図ることができた。

(10) 自立活動代表者部会

本年度は、第1回目を8月に都城さくら聴覚支援学校で、同校の聴覚障がい児担当教員研修会に参加させていただき、聴覚支援学校とその他の支援学校との連携や支援等の体制作りについて協議した。さらに、第2回目を12月にみやぎ中央支援学校で、仲本指導教諭の授業研究を中心に自立活動の指導について協議を深めた。また、両校の校内や寄宿舎の見学のほか自立活動についての講話、各校の情報交換等も行い有意義な会となった。